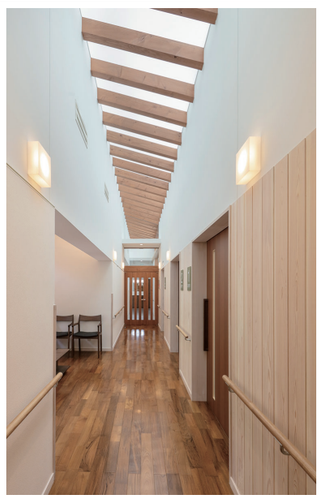
最優秀賞　木祖村　医療法人 奥原医院

藪原宿に調和した外観と地域コミュニティを支え四季が感じられる空間

木曽谷の谷間に位置し、西に木曽川、東に藪原宿が存在する旧中山道沿に建設の本医院は、「藪原宿との調和」をコンセプトに、宿場町のたたずまいと調和した外観を保ち、訪れた患者さんをやさしく迎える癒しの建築を意識しました。

アプローチは木曽谷に沿って吹く卓越風を防ぐため、クランク状にして板塀で囲いました。屋根材は木曽谷に特徴的な赤錆び色の鋼板屋根を採用し、屋根形態を3つに分節し、民家のスケールに合わせた威圧感のない優しい建築にしました。切妻屋根と地域産のサワラ材による小幅板張りの外壁や板塀により、藪原宿のたたずまいに調和する意匠としました。

建物の中心を貫く患者動線（中廊下）に、諸室をクラスター状に配置し、上部はトップライトを連続させ、明るく伸びやかな空間としました。地域コミュニティの一端を担う待合は、大きな木製の開口から、四季を感じられる雰囲気とし、心地良く安心して過ごせる空間としました。



■建設地：木曽郡木祖村 1224 番２の内
■構造規模：木造平屋建て
■竣工：2018 年３月

■ 設計
本社　〒390-0852
長野県松本市島立1132-25
tel/0263-47-7766 fax/0263-47-0462
東京事務所　〒101-0052
東京都千代田区神田小川町2-12信愛ビル5F
Archideach Architect & Associates,Inc.
代表取締役 児野 登
株式会社 アーキディアック
一級建築士事務所 建築 都市 環境 情報

■ 施工
Kiso Doken 木曽土建工業株式会社
代表取締役 水本 豪
木曽郡木祖村小木曽172番地2　TEL0264-36-2555　FAX0264-36-3655

優秀賞　パラレルルーフ　ふたつ屋根の下

■シンプル＆ハイクォリティ

建築をつくるための諸条件は一つひとつ異なるものですが、洗練されたシンプルなデザインをベースに居心地の良い快適な空間を創りだしていくという姿勢を自身の設計の軸にしたいと考えています。クライアントからの要望は、白くてモダンなイメージの家、天井の高いリビングルーム、平屋でプライベートリゾート風であることなどでした。

■プランとルーフ

敷地形状にあわせて、パブリックとプライベートのゾーンを分離し、平行に対面させるプラン構成を描きました。中間に挟まれた中庭に向けて傾斜を付けた垂木構造の架構を等間隔に配し、ストライプ状の陰影によってつくられるシェルターで覆っていきました。向かい合って並んだ二つの屋根はこの住宅の形態的な一大特徴となり、全体が抽象的なアートオブジェのようになっていきました。

中庭は、二つのゾーンの緩衝域というにおさまらず、むしろ二つのゾーンを積極的につなぐアウトドアスペースの性格を帯びて、日々の暮らしがゆとりと開放感のあるプライベートなリゾートホテルで過ごしているかのような非日常的な雰囲気を感じさせるものになりました。

■建設地：長野市
■構造規模：木造1階293.63㎡
■竣工：2017年11月

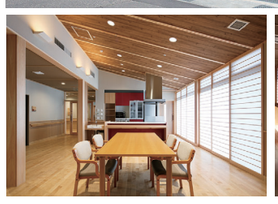
■ 設計
㈲関建築とまち研究室
代表取締役 関 邦則
長野市西長野町2-4　TEL 026-233-5566　FAX 026-233-5567

■ 施工
明日を創る
共和建設株式会社
代表取締役社長 野本大介
長野市三輪1-2-13　TEL 026-241-1181　FAX 026-259-2843

優秀賞　地域密着型特別養護老人ホーム「ゆめの里 今井」

松本市郊外の農村集落の中心部に建つ、地域密着型の高齢者福祉施設。外観は、本棟造の民家や土蔵が点在する集落の景観の中に自然に溶け込むよう、分棟形式としてヴォリュームを抑え、大きな切妻屋根や塗壁や板張りをイメージした外壁など落ち着いたものとした。空調室外機などの設備を可能な限り露出させないよう、目隠しに有効折版を用いて外観上のアクセントにした。

主要居室は、すべて緑豊かな中庭に面し回遊動線によって結ばれる計画とし、入居者、職員、訪れた人は中庭越しに施設全体の動きを感じることができる。「地域交流ホール」は、施設を「地域住民の交流の場」にしていくための今計画の大きな特色となるが、特養老部分についても、各ユニットで完結してしまい勝ちな高齢者のためにユニット間に交流スペースを設置した。ここでは「交流」だけでなく、ひとりで中庭の自然を感じながら静かな時間を過ごすこともできる。さまざまなレベルで「居場所」を用意することがより充実した生活には必要との建築主の哲学を反映した空間になっている。「ゆめの里 今井」が高齢者や大人だけでなく、子供を含めた世代間交流の場となり、新たな地域の結びつきへ繋がってほしいと願っている。



■建設地：松本市今井1670
■構造規模：W造準耐火構造２階建て
■延べ床面積：1647.77㎡
■竣工：2017年2月24日

■ 設計
株式会社倉橋建築計画事務所
代表取締役所長 小宮山吉登
松本市野溝木工1-1-30　TEL 0263-26-6765　FAX 0263-28-6765

■ 施工
匠友 誠技
株式会社 カネトモ
代表取締役 伊藤 進
茅野市宮川7081　TEL 0266-72-2575　FAX 0266-72-0599

長野県における真摯な建築的いとなみ

総評

令和元年度建築作品選考委員会
委員 土本 俊和（信州大学工学部教授）

新しい時代を迎えたばかりの令和元年5月17日金曜日、日事連建築賞の募集要項に基づき、令和元年建築作品選考委員会を午後1時半から長水建設会館1階会議室で開催しました。

日事連建築賞の対象は、日本国内の建築作品で、一般部門（延面積が一千平米を超え一万平米のもの）と小規模部門（延面積が千平米以下のもの）にわかれています。令和元年5月開催の本選考委員会は、単位会である長野県建築士事務所協会に所属する建築士事務所から応募された建築作品を対象としたもので、日事連建築賞の一次審査にも該当するものです。今回の応募作品は、一般部門3点と小規模部門3点の計6点でした。

春日事務局長の進行のもと、小河節郎会長、中澤栄二委員、清水宏委員、佐藤修明委員、土本俊和の計五名の委員で審査をおこないました。

委員5名は、個々の建築作品を注視したのち、それぞれコメントして意見を交換し、ふたたび建築作品を注視しました。すべての建築作品が未来に向かってはばたく明るく味わい深いものでした。

委員5名は、それぞれの建築作品の長短を見極めつつ総合的に判断し、その結果、最優秀賞を小規模部門から1点選出し、優秀賞を一般部門から1点と小規模部門から1点選出しました。

今回の審査に続く二次審査が、日事連建築賞選考委員会（富永譲委員長）による建築作品審査です。その表彰基準は、①国土交通大臣賞、②日事連会長賞、③優秀賞、④奨励賞からなっています。二次審査でも、意匠、構造、防災、安全、ユニバーサルデザイン、景観・まちづくり、地球環境維持などが評価基準となります。

長野県建築士事務所協会から日事連に提出されたもので日事連建築賞を受けたものを回顧してみると、信州という地域性を体現した建築作品にとりわけ熱い眼差しが向けられてきたように感じます。

長野県の建築士事務所は、様々な問題に取り組みながら、建築の理想を追求して、設計図書を仕上げ、そして現場で空間を創出していくという仕事を着実にしていることを今回の審査を通じて改めて実感することができました。

長野県の建築は、21世紀の現代世界の中で、とりわけ令和を迎えた現代日本の中で、人々の願いを真摯に形にしていく営みとして、注目されています。